

平成 23 年度 府立夕陽丘高等学校 経営計画

1 めざす学校像

夕陽丘教育の従来 of 3 本柱に、「国内最高レベルの音楽教育の推進」を加えて 4 本柱とする。

① 一人ひとりの進路希望を実現できる学力を身につける。

自己の将来ビジョンを可能な限り明確にし、その進路実現のための確かな学力と実行力を備えた生徒を育成する。

② 自ら考え行動できるように、自主自律の心を養う。

学校行事や部活動、ボランティア活動等に積極的に取り組み、自ら主体的に考え粘り強く行動できる生徒を育成するとともに、相手の痛みが共感できる優れた人権感覚を身に付けさせる。

③ 国際交流体験を通して、自己発見と他者理解を深める。

海外の研修に積極的に出かけて国際感覚を磨き、見聞を広める。また、外国の諸団体を積極的に受け入れ国際交流を推進することにより、将来、国際人として飛躍できる資質・能力を育成する。

④ 国内最高レベルの音楽教育を推進する。

国や府の推進事業等を積極的に活用し、音楽科の講師とも一体となって最高レベルの音楽教育を推進することにより、生徒の音楽的才能を開花させる。

2 中期的目標

①に関する中期的目標

- ①教員の授業力の向上を期すため、平成 21 年度から推進している校内研究授業や外部公開授業を今後 3 年間さらに活発化させ、「魅力ある授業」「分かる授業」の確立に向け一丸となって取り組む。
- ②授業評価 PT を中心に授業評価アンケートを年間 2 回実施し、教科担当者の自己分析は勿論のこと、教科、学年、学校全体で綿密に分析・協議し、効果的な授業改善を図る。授業満足度 80% を目標とする。
- ③自己の将来を見据えたキャリア教育を 1 年次より段階的・系統的に推進し、進路目標の明確化を図る。
- ④放課後、土曜日、長期休業中の補講習をさらに充実させ、3 年間を見通した計画的・発展的な指導体制を築くとともに、家庭学習を中心とした自主的な学習時間の増大を図り、最大限の進路実現を図る。
☆国公立大学現役合格者 50 名 関関同立現役合格者累計 120 名を目標とする。
- ⑤「使える英語プロジェクト事業」を活用して、英語運用能力を高めるとともに、進路実現に必要な英語力の向上を図る。

②に関する中期的目標

- ①遅刻指導を徹底させ、基本的な生活習慣の確立を期す。年間遅刻総数 2500 を割ることを目標とする。
- ②生徒自治会や PTA と協力して、朝の挨拶運動を推進し、挨拶する態度を確実に身に付けさせる。
- ③地域清掃活動及び地域の高齢者施設、病院との交流活動の充実を図る。近隣の小・中学校とも連携して活動を活性化させる。
- ④新入生へのクラブ紹介やオリエンテーションを充実させ、普通科生徒全体の加入率 90% 超を目標とする。
- ⑤参加体験型の取組を含む 3 年間を見通した人権教育の充実を図り、特に障がいを持った人たちに対する思いやりと共感の精神を育成する。

③に関する中期的目標

- ①「使える英語プロジェクト事業」を活用して、国際交流に必要な英語のコミュニケーション能力を向上させ、有意義な国際交流の実現を図る。
- ②海外修学旅行、ニュージーランド語学研修、ウィーン音楽研修を継続実施し、国際感覚を磨くとともに、最大限の教育的効果を上げる。
- ③国際交流基金日中交流センター等と連携し、長期・短期の留学生を積極的に受け入れる。
- ④大阪観光コンベンション協会や駐大阪韓国文化院等と連携して、海外の学校の訪問を積極的に受け入れ、有意義な国際交流を展開する。
- ⑤国際交流担当首席や国際交流委員長を中心に、各学年団とも連携して、国際交流委員会の組織的活動を充実させる。
- ⑥各学年の生徒国際交流委員会の定期的開催を定着させ、活動を活発化させる。また、国際交流新聞の定期的発行を軌道に乗せる。
- ⑦国際交流活動の資金源となる国際交流基金の安定化を図る。そのため、同窓会、PTA、後援会等にその実情を訴え、積極的に資金協力を働きかける。

4 に関する中期的目標

- ①国や府の推進事業等を計画的に活用して、日本の伝統文化や外国の音楽文化を学ぶ機会を積極的に設定するとともに、国内外のトップアーティストを招聘した特別レッスン、特別公開講座の質と回数を充実させる。特別レッスン、特別公開講座については、年間 30 回の開催を目標とする。
- ②音楽科講師との連携を強化し、最高レベルの音楽教育を推進するとともに、進路保障の充実を図る。音楽科現役生徒の進路決定率 90%以上を目標とする。
- ③一流の指揮者を招聘して、NHK 大阪ホールでの定期演奏会を継続・発展させる。
- ④生徒の自主運営による学内演奏会やアウトリーチ活動など、発表の場を多く体験することで音楽的能力や企画力の伸長を図る。
- ⑤小・中学校や地域への広報活動を活発に行い、本校音楽教育の素晴らしさを積極的にアピールする。入学者選抜の倍率 2.0 倍を目標とする。
- ⑥海外の音楽学校と連携し、交流を促進する。また、その交流を活発化させるため、「使える英語プロジェクト事業」を活用して、音楽科生徒の英語コミュニケーション能力の向上を図る。
- ⑦世界に羽ばたく音楽家の育成を期して、特に音楽的資質・能力の高い生徒を中心に、T-NET による特別英語レッスンを定期的に継続実施する。

3 今年度の重点目標と取組み

	目標	取組内容	評価指標
取 組 み ①	①研究授業や公開授業の推進	①主要 5 教科+音・体・家より 1 名以上が 6 月・11 月を中心とした時期に実施する。 ・T-NET を活用して、英語科教員に対する英語力向上研修を積極的に推進する。	①校内研究授業 8 名以上、外部公開授業 5 名以上 ・定期的に継続実施
	②授業評価アンケートの実施	②非常勤講師を含む全教員対象に 7 月と 12 月に実施し、結果を分析・協議して改善策をまとめる。	②2 回実施、PT による授業改善策の提示
	③キャリア教育の推進	③「総合」の時間や LHR を活用して自己の進路を考える。大学等と連携して進路実現に向けた具体的な取組みを図る。	③各学年が計画通り積極的に実施し、効果を上げたか
	④進路実現に向けた補講習の充実 ・自主的な学習時間の増大	④学年別に補講習の年間計画を作成する。土曜講習、放課後の講習は全学年で実施する。一定時間、自習室を確保し継続的に運営する。 ・各教科で効果的な課題を積極的に提供し、自学自習の環境作りを仕掛ける。定期的に学習実態調査を行う。	④放課後講習、土曜講習の全学年実施 ・定期的な学習実態調査の実施。自主学习時間の段階的アップ ・国公立大合格 30 名、関関同立大合格 100 名
	⑤英語運用能力及び英語力の向上	⑤1 年「英語 I」、2 年「ライティング」の授業において、T-NET との TT を活発化させるとともに、ICT やタブレット型パソコンを駆使して英語漬けの授業を展開する。 ・「リーディング」の授業において、様々な工夫をしてプレゼンテーション、ディスカッション、ディベートのスキルの向上を図る。	⑤TOEIC IP220 点以上 TOEFL iBT24 点以上 英検 準 2 級以上の合格率の目安→受験者の 75%以上

<p>取組み 2</p>	<p>①遅刻指導の徹底</p> <p>②朝の挨拶運動の推進</p> <p>③地域清掃活動や地域交流活動の充実</p> <p>④部活動参加の促進</p> <p>⑤人権教育計画の策定とその推進</p>	<p>①従来から実施している遅刻防止指導を更に徹底し、正当な理由のない遅刻の減少を図る。特に、遅刻常習者に対しては、関係部署と連携を密にし、大幅な改善を期す。</p> <p>②府教委から支給された幟を積極的に活用し、朝の正門等での挨拶運動を活性化。教職員の自主的な参加を促進する。</p> <p>③生徒と教職員が協力して地域の清掃活動を活発に行う。近隣の小・中学校との合同清掃活動も実施する。音楽科や吹奏楽部を中心に高齢者施設や病院等との交流活動を促進する。</p> <p>④新入生に対して関係部署が連携し、創意工夫を凝らして部活動の素晴らしさと積極的参加を呼びかける。</p> <p>⑤3年間を見通した人権教育計画を策定し、参加体験型を含む効果的な人権教育を展開する。</p>	<p>①遅刻防止指導週間の効果的な設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間遅刻総数 3000 を割る <p>②生徒、教職員合わせて常時 20 名の体制 お互い声が出ている</p> <p>③合同清掃活動を含む年間 5 回以上の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間 5 回以上の交流活動の実施 <p>④新入生の部活動加入率 90%以上</p> <p>⑤人権侵害事象が生じなかったか</p>
<p>取組み 3</p>	<p>①国際交流に必要な英語のコミュニケーション能力の向上</p> <p>②海外研修の推進</p> <p>③留学生の積極的受け入れ</p> <p>④海外の学校の積極的受け入れ</p> <p>⑤国際交流委員会の活動の充実</p> <p>⑥生徒国際交流委員会の活性化</p> <p>⑦国際交流基金の安定化</p>	<p>①国際交流委員やニュージーランド語学研修の参加者を中心に、T-NET による放課後の特別レッスンを積極的に実施する。</p> <p>②台湾修学旅行、ニュージーランド語学研修に精力的に取り組む、画期的な成果を収める。</p> <p>③中国からの 2 名の長期留学生（1 年間）を 7 月まで受け入れ、9 月からは新規の留学生を受け入れる。</p> <p>④中国、韓国の学校を中心に、効果的な交流を図る。</p> <p>⑤国際交流委員会を定期的に開催する。</p> <p>⑥生徒国際交流委員会を定期的に開催するとともに、国際交流新聞を定期的に発行する。</p> <p>⑦関係団体の協力を得て、活動資金を確保する。</p>	<p>①定期的に継続実施</p> <p>②生徒の満足度 90%超</p> <p>③留学生の成長度と生徒への波及効果</p> <p>④交流活動 3 回以上</p> <p>⑤月 2 回以上の開催</p> <p>⑥年間 5 号以上発行</p> <p>⑦3 年間の活動資金の確保</p>
<p>取組み 4</p>	<p>①国や府の推進事業等の積極的活用、及び特別レッスン、特別公開講座の充実</p> <p>②音楽科講師と連携し、最高レベルの音楽教育を推進</p> <p>③定期演奏会の継続・発展</p> <p>④生徒の自主運営による音楽的能力や企画力の伸長</p> <p>⑤広報活動の活発化</p> <p>⑥海外の音楽学校との交流を促進</p> <p>⑦世界に羽ばたく音楽家の育成</p>	<p>①国の事業を活用し、オペラの実習を通じて生徒の表現力、コミュニケーション能力の育成をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や府の事業を活用し、能や文楽などの伝統芸能教育の実践を推進する。 ・DEAN と連携し、国内外のトップアーティストを招聘した特別レッスン、特別公開講座の質と量を充実させる。 ・講師を継続的に招聘し、一定のテーマに基づいて長期的な視点で指導が行えるよう企画する。 <p>②通常の授業のほか、生徒の音楽的才能を開花させるために十分な指導体制を整えると同時に、進路実績のアップを図る。</p> <p>③9 月 18 日に NHK 大阪ホールにおいて音楽科定期演奏会を開催する。</p> <p>④従来の学内演奏会に加えて、地域等でボランティアによる演奏会を企画し、発表する。</p> <p>⑤「音楽科説明会」「音楽基礎講座」の内容を充実する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や音楽団体と連携し、本校生徒と交流演奏会を実施する。 <p>⑥アジアの音楽文化発信の拠点として、ソウルや上海の音楽学校と交流を行い、合同演奏会を開催する。</p> <p>⑦音楽的才能のみならず、英語で世界の音楽家と堂々と交流できる国際的音楽家を育てる。</p>	<p>①年 12 回の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能の外部講師の招聘 3 回 ・年間 25 回以上実施 <p>②国公立大進学 20 名が目標。進路決定率 85%以上</p> <p>③満席の観客を動員</p> <p>④学内演奏会年 3 回 ボランティア演奏会年 3 回以上実施</p> <p>⑤創意工夫を懲らした説明会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 回以上の実施 ・入試倍率 1.5 倍以上 <p>⑥日中韓交流演奏会の開催</p> <p>⑦T-NET による特別レッスンの継続的実施</p>